

報道関係各位

令和4年3月4日
一般財団法人 沖縄美ら島財団
国立研究開発法人 水産研究・教育機構

持続可能な水産資源のための公海調査に協力 「天皇海山」海域 3種の新種サンゴを発見

一般財団法人 沖縄美ら島財団 総合研究センター(沖縄県本部町)と国立研究開発法人 水産研究・教育機構水産技術研究所(沖縄県石垣市)の共同研究グループは、2009年～2012年に水産庁が漁業調査船「開洋丸」で実施した「天皇海山トロール漁場海底環境調査」において採集された22点の宝石サンゴ類標本を調査し、3種の新種が含まれていることを発見しました。

本研究の内容は、日本動物分類学会国際学術誌「Species Diversity」に掲載されました。

■発表雑誌■

雑誌名: Species Diversity

論文名: A Report on Coralliidae (Cnidaria: Octocorallia) Specimens Collected from the Emperor Seamounts with Descriptions of Three New Species

著者名: 野中正法¹、林原 毅²

(¹一般財団法人 沖縄美ら島財団)

(²国立研究開発法人 水産研究・教育機構 西海区水産研究所

現: 水産技術研究所八重山庁舎)

掲載日: 2021年10月14日

■ポイント■

- 水産庁では「天皇海山」海域の持続可能な漁業を発展させるため、2006年から資源と漁場環境の調査を実施している。当海域は1960年代に大量の宝石サンゴ類が漁獲された場所で、本調査の結果、宝石サンゴ類も複数採集された。
- サンゴ類等の海底環境調査を担当した水産研究・教育機構からの依頼を受け、沖縄美ら島財団が22の標本に対し分類学的調査を実施。その結果、形態の違い、遺伝子の分析などにより8種類に分類され、さらにそのうち3種類が新種であることが判明した。
- 3種それぞれに「*Hemicorallium kaiyo*」、「*Hemicorallium muzikae*」、「*Hemicorallium tokiyasui*」と学名を付けた。
- このような生物多様性調査の結果は、計画的な漁獲をする種、保護対象とする種の判別に寄与し、持続的な漁業ならびに水産資源保全へとつながる。

■代表研究者■

野中 正法(のなか まさのり): 一般財団法人沖縄美ら島財団総合研究センター 統括
専門は八放サンゴ類の分類学、生態学

<お問い合わせ> 一般財団法人 沖縄美ら島財団 企画広報課 仲宗根・宮内
TEL 0980-48-3649 / FAX 0980-48-3122
E-Mail: oki-pr@okichura.jp

＜研究の背景＞

現在、世界的に水産資源は枯渇しており、資源を利用する各国に対しては、資源管理を行いながら利用する、持続可能な漁業が求められています。日本においても保全のための水産資源調査は重要であり、対象魚種を拡大して取り組みを加速しています。

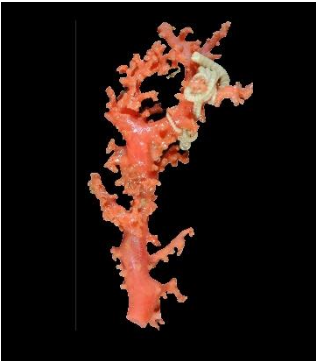
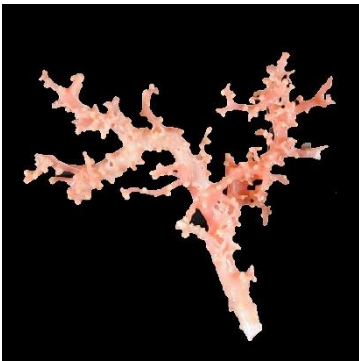

日本の遠洋漁業の重要な漁場である「天皇海山」海域において、水産庁は 2006 年より資源と海底環境の調査を開始しました。当海域は 1960 年代に宝石サンゴ類の漁場が発見され、日本や台湾などの漁船により大量の宝石サンゴが漁獲された歴史があります。しかし、当海域に生息する宝石サンゴ類の調査は行われてきておらず、水産庁による「天皇海山トロール漁場海底環境調査」において初めて詳細な標本調査が行われました。

沖縄美ら島財団は、2009 年～2012 年に水産研究・教育機構が実施した海底環境調査で採掘された宝石サンゴ類のうち、主に天皇海山の南端部（桓武海山、光孝海山周辺）の水深 350m～1100m から採集された 22 の標本について分類学的調査を行いました。

＜研究の概要＞

22 標本のうち、11 標本はコサンゴ近似種、8 標本はハワイや日本近海に分布する 4 種類に近似する種類と判定されました。

残りの 3 標本は、その形態（ポリプの大きさ、骨格の色、組織内の骨片の大きさや形など）の計測データや遺伝子解析の結果、これまでに記録されているどの種類とも特徴が異なり、新種であることが判明しました。また、以下のように学名を与えました。

		
<p><i>Hemicorallium kaiyo</i> (ヘミコラリアム・カイヨウ) 調査船「開洋丸」にちなみ命名</p>	<p><i>Hemicorallium muzikae</i> (ヘミコラリアム・ミュージッカエ) サンゴ研究者キャサリン・ミュージック博士 の功績をたたえ命名</p>	<p><i>Hemicorallium tokiyasui</i> (ヘミコラリアム・トキヤスイ) 光孝海山付近から採取されたため、 光孝天皇の諱「時康」にちなみ命名</p>

＜今後の展望＞

水産資源を利用する上で、その資源動態を調査することは重要です。資源量の多いものは計画的に漁獲し、少ないものは保護対象とすることで持続的な漁業が成り立ちます。

沖縄美ら島財団では沖縄の生物多様性を中心に調査研究を進めており、国家機関からの依頼調査や海外組織との連携による調査にも蓄積したノウハウを生かしております。今後も調査研究の結果から、沖縄県内外における生物多様性維持のための活動を推進してまいります。